

霧島市民全員参加の交換日記

ソーシャル日記システム SOCIAL NIKKI SYSTEM

ソーシャル日記システムとは

ほめ合うまちを目指す霧島市が取り組む新しいプロジェクト、それが全市民が参加する交換日記「ソーシャル日記システム」。1,600冊ある日記帳の総ページ数は、霧島市の人口と同じ126,000ページ。日記帳がひとつからひとつへ渡り、ページが埋められていくことで、霧島市の魅力が詰まった特別な一冊が完成するのです。あなたもこの日記帳を使って、ほめ上手になりましょう。



使い方

- ① ほめたいことを探しましょう。
- ② ほめたいことを見つけたら、日記に書きましょう。
- ③ 次に日記を書いてほしいひとに、日記帳を渡しましょう。



よくある質問

何を書いてもいいの？

霧島市のほめたいことを書く、それが唯一のルールです。だから、家族や友人など、身近なひとのほめたいことを書いたり、「この角度から見る桜島が最高だ」「あのお店ラーメンは天下一品だ」など、観光資源やお気に入りのお店のことを書いてもOKです。

最後のページに日記を書いたひとはどうすればいいの？

霧島市役所に直接お持ちいただくか、郵便切手を貼ってポストに投函してください。ただ、ひとからひとへと手渡して旅をしてきた日記帳です。できれば霧島市役所に直接お越しいただけるとうれしく思います。担当者が手厚くお迎えますよ。

文章以外のことを書いてもいいの？

イラストを描いたり、シールを貼ったり、自作のスタンプを押してもOK。普通に日記を書くだけでなく、ほめたいことを俳句にしたり、ポエムにしてみても面白いかもしれませんね。

書いた日記帳は最終的にどうなるの？

霧島市の魅力が詰まったアーカイブとして市役所に展示される予定です。ひとの魅力だけでなく、ラーメンをほめあう日記帳や、温泉をほめあう日記帳など、霧島市の魅力の数だけの日記帳が完成するのです。

交換日記は1対1でやるの？

より多くの市民に参加してもらうため、誰かと1対1でやりとりをするのではなく、学校や職場で回したり、ホテルや旅館の部屋に置いて宿帳のように使ってみたり、自由に交換し合ってください。日記を通して知らないひと同士がつながっていくのも、このプロジェクトの魅力なのです。

霧島市に住んでいるひとしか参加できないの？

霧島市を愛するひとであれば、どなたでも参加することが可能です。だから、旅行で訪れた方が書いてももちろんOK。霧島市の魅力を伝えるために市外に飛び出した日記帳が日本中を、いや、世界中を旅して戻ってきたら素敵ですね。

日記に書いたひと(ほめたひと)以外に渡してもいいの？

書いた対象と渡す相手が違っていてもOK。むしろその方が、あなただけが知っている霧島市の魅力を、より多くのひとに知ってもらうきっかけになるはずですから。

その他のお問い合わせは霧島市役所まで。

鹿児島県霧島市国分中央三丁目45番1号
霧島市役所 商工観光部霧島PR課
シティプロモーション推進グループ
TEL:0995-64-0705